

薬の伝言板　湿布薬の使い方

No. 316　2024年3月
丸子中央病院　薬局

湿布薬は、炎症を抑える消炎鎮痛成分を含んだ貼り薬で、皮膚から薬の有効成分が吸収されることで炎症に伴う腫れや痛みを和らげる効果を発揮します。

１．貼り方のポイント

① 貼り過ぎに注意しましょう。

- 痛いところに**１日１～２枚で効果は十分**に発揮されます。
- 過度に貼ることで湿布に含まれる消炎鎮痛成分を過剰に体内に吸収してしまい、消化管出血等の副作用を起こす可能性があります。

② 長時間貼り続けることは避けましょう

- 湿布薬は**４～６時間の貼付で消炎鎮痛成分がしっかり吸収**され、はがした後も効果は持続します。
- 次の湿布を貼るまで時間を空けることは皮膚のかぶれ等の予防にもなります。

２．湿布薬の種類と特徴

① **冷湿布**と**温湿布**の違い

- 鎮痛効果は**どちらも同じです。**
- **冷湿布**：炎症や腫れを伴う急性の痛み（筋肉痛、ぎっくり腰、ねんざ等）に適しています。
- **温湿布**：長く続いている慢性的な痛み（腰痛、肩こり、神経痛など）に適しています。

② テープ剤とパップ剤の違い

- **テープ剤**

長所：粘着力が強く、伸縮性に優れ、**剥がれにくい**です。
（関節など、動きが大きい部位に適しています）。
短所：長期間使用するとかぶれやすくなることがあります。



- **パップ剤**

長所：粘着部分の水分が多く、皮膚刺激が弱いため**かぶれにくい**です。
短所：粘着力が弱く、はがれやすいです。

③　当院院内採用湿布薬一覧

成分名	剤形	用法	特徴
ケトプロフェンテープ	テープ剤	１日１回	光過敏症に注意 貼付部位への日光暴露を避ける（剥がした後も４週間は同様） アスピリン喘息、妊娠後期に禁忌
ロキソプロフェンテープ	テープ剤	１日１回	アスピリン喘息に禁忌
エスフルルビプロフェンテープ	テープ剤	１日１回	１日２枚まで 変形性関節症にのみ適応あり アスピリン喘息、消化性潰瘍、妊娠後期に禁忌
フェルビナクパップ	パップ剤	１日２回	アスピリン喘息に禁忌
サリチル酸メチル、dl-カンフル、メントール（冷湿布）	パップ剤	１日１～２回	禁忌なし。 本剤に触れた手で粘膜に触れてはいけない。
サリチル酸メチル、dl-カンフル、トウガラシエキス（温湿布）	パップ剤	１日１～２回	禁忌なし。 入浴前の 30 分以上前に剥がす。入浴後すぐに使用しない。 本剤に触れた手で粘膜に触れてはいけない。



湿布薬にはいくつか種類があり、使用部位等に応じて使用感の良いものを選択すると良いです。使い方を理解して安全に使用することが重要です。

文責　薬局　宮川・羽毛田